

新たなCO2削減目標の取り組み内容(案)

■ 基本目標I 地球温暖化対策

「取り組み方針」1-1

エネルギーの面から見た取り組みの推進

- ・気候変動対策に対応する低炭素・快適性・防災を同時に実現するスマートエネルギー都市創造のためのMSの推進。【亀井】
- ・「業務その他部門」での経済活動と連動した環境対策の徹底を図る。【崎田】

○ 取り組み内容

区	<p>【崎田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿は「業務その他部門」の排出するCO2比率の高い地域であり、特に中小事業者や商店街の取り組みが重要ながら、省エネ・再エネ等の初期投資が壁となる場合が多い。また、ビルオーナーの取り組みインセンティブづくりなど含め、国や都の補助金等の支援策を徹底活用して環境と経済の好循環する事業展開の定着を目指す。 <p>【勝田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーと系統およびガスのベストミックス 排熱系の未利用エネルギーの活用(利用促進) FC「燃料電池コージェネレーション」の積極導入(HC「家庭用小型コージェネレーションユニット」を中核とするコージェネ) 上位の制御系であるCEMS(コミュニティエネルギーマネジメントシステム)の導入をめざす。 <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの推進。(集合住宅の専有部と共用部のEM化。) ・エネルギー使用合理化に向けた支援補助金の見直しと継続 ・人口減少に伴うまち機能の集約により、公共交通道路線沿いに拠点市街地を形成し、未利用エネルギー・自然資本の活用により低炭素まちづくりを実現する ・学校施設等へ常用発電用コージェネレーションの設置推進
区民	<p>【勝田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーと系統およびガスのベストミックス 排熱系の未利用エネルギーの活用(利用促進) FC「燃料電池コージェネレーション」の積極導入(HC「家庭用小型コージェネレーションユニット」を中核とするコージェネ) <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの推進。(集合住宅の専有部と共用部のEM化。) ・人口減少に伴うまち機能の集約により、公共交通道路線沿いに拠点市街地を形成し、未利用エネルギー・自然資本の活用により低炭素まちづくりを実現する
事業者	<p>【崎田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿は「業務その他部門」の排出するCO2比率の高い地域であり、特に中小事業者や商店街の取り組みが重要ながら、省エネ・再エネ等の初期投資が壁となる場合が多い。また、ビルオーナーの取り組みインセンティブづくりなど含め、国や都の補助金等の支援策を徹底活用して環境と経済の好循環する事業展開の定着を目指す。

【勝田】

- ・再生可能エネルギーと系統およびガスのベストミックス
排熱系の未利用エネルギーの活用（利用促進）
FC「燃料電池コジェネレーション」の積極導入（HC「家庭用小型コジェネレーションユニット」を中核とするコジェネ）

【亀井】

- ・EMSの推進。（集合住宅の専有部と共用部のEM化。）
- ・省エネアドバイザー制度により省エネ/節電行動を推進。省エネバリア（資金・リスク等）を創・畜・省・熱エネの組み合わせによるEMSで解決。
- ・人口減少に伴うまち機能の集約により、公共交通道路線沿いに拠点市街地を形成し、未利用エネルギー・自然資本の活用により低炭素まちづくりを実現する
- ・病院・ホテル・福祉関係施設等へ常用発電用コジェネレーションの設置推進

「取り組み方針」 1-2

環境づくりから見た取り組みの推進

- ・「低炭素と高齢化」を枠組みとした住宅・建築物・設備機器の省エネ性能の向上【亀井】
- ・「家庭部門」のスマート化を「技術とライフスタイル（ハードとソフト）」の連携で実現。
- ・「国民運動」を若者含めた市民・事業者などの参加と協働で広げ持続可能な都市をめざす。
- ・2020年を契機に、グローバルで持続可能な都市をめざす。【崎田】
- ・新たなCO₂削減目標を定め、その実現に向かって努力して行かなければならないのだが新宿区民としては、低炭素型のライフスタイルを自ら考え、又区の示した取り組みに対して行動していくしか方法はないと思います。【原田】

○ 取り組み内容

区	<p>【野村】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 同上的ように自前予算だけでは十分なCO₂削減対策ができないと予想されるため、官民連携（Public Private Partnership）、産官学連携による、事業開発や協働による事業投資を可能とする資金調達手法含めたスキームを創設（補助金・助成金方式以外に、ファンド型、出資型などを採用していく）。・ 一人一人の省エネ・新エネ活動（ソフト活動）や、省エネ・新エネ設備導入によるハード機器に依存した施策では限界がある。既存のオープンスペース、都市インフラの活用とリノベーションによる、都市全体の低炭素構造化を図っていく大胆な都市政策を検討、導入する。 <p>【崎田】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 家庭部門を中心にした住宅のエネルギーマネジメントも重要であり、効果的なCO₂対策として、省エネ基準も強化される状況にある。そこで、住宅の新築・既設、マンションの新築・既設とも、エネファーム等の燃料電池の導入など、熱を含めたエネルギーの徹底活用に向けた支援策が必要となる。・ 住む方の意識でエネルギー効率は大きく変化するため、モデルハウス等を活用した具体的なライフスタイル啓発などハードとソフトの連携による効果を高めることも重要となる。・ 国民一人一人の実践を「国民運動」として呼びかけているが、小中高校生、大学生、働き盛り年代、シニア世代含めて、新宿らしい実践を地域やビジネス街で広げる。・ 快適環境を地域で共有する「クールシェア」や、LEDなど環境性能の高い製品を選択する「クールチョイス」、早朝を活用する「サマータイム」、コミュニティー交通「WEバス」利用の活性化、「サイクルシェア」など、一つ一つ実現させてゆく。・ 高齢化社会による都市への回帰など、新宿は人口増も予想され、花と緑のまちづくり、みどりのカーテン、などで快適で温かいコミュニティーをめざす。 <p>【福田】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 目標達成に向けての行動指針ではなく、区民意識の改革が第一と感じます。区民一人ひとりにCO₂削減に対して何が出来るのかではなく「新宿区＝環境区です」と区民への意識の徹底が第一ではないかと考えます。・ 東京オリンピックの主会場を有する区として、世界中の多くの人々が注目する中『「新宿区」は区民あげて、環境問題（CO₂削減等々）に対峙している旨』を情報発信してみたいかがででしょうか。・ 政府同様にスローガン（一般公募）を掲げ、区民意識の中に、それを芽生えさせ、そして育んで行こうではありませんか。
---	---

【亀井】

- ・建物の断熱強化、冷暖房効率の向上、照明などの機器の効率化等、省エネ・EMSの推進
- ・既築住宅・建築物の改訂省エネ基準適合率改善への支援（高性能断熱材・窓等がトップランナーによりカバー）。
- ・中小工務店・大工へ、ゼロエネルギー住宅の取り組み支援。
- ・創エネ機器導入へ補助継続
- ・再生可能エネルギー電力の自給率向上（東京都は全国最下位）。
- ・水道水の節水（流量調整蛇口・節水シャワー等）。
- ・雨水の活用（庭への水撒き等）。
- ・「グリーン購入法」「環境配慮契約法」に基き、率先して省エネ機器、設備の導入、建物の省エネ化を実施する。
- ・節電の為の省エネ・省CO₂削減の徹底
- ・自動車のエコドライブ10項目（エコドライブ普及連絡会）を遵守する。
- ・区使用の電力については、出来るだけ環境配慮型電力で契約をする。

【山本】

- ・再生可能エネルギーの一つである大気中の熱を活用するヒートポンプについて継続して普及に努めるべき。とりわけ、用途別に家庭の使用エネルギー消費を見た際に大きな割合を占める給湯分野でのヒートポンプの活用を図ってはいかがか。
- ・電気自動車の普及のため急速充電器の設置促進を図ってはいかがか。

【手塚】

- ・地表から排ガスを徹底的に減らす為に区民一人一人がいかにマイカーに乗らないようにするか。自転車や徒歩や公共交通機関を若者や元気な人達は積極的に取り組むことをやる段階、状況にきています。それと同時にのおのずと温暖化の意識を向上、周知する必要もありますよね。

【原田】

- ・伊那市等と連携しているカーボンオフセット事業を拡大する。
- ・側道に自転車ロードを作る。
- ・新たに大きな公園を造る。
- ・区の施設を回わる無料循環バスの運行

区
民**【野村】**

- ・前回委員会でも紹介しましたが、省エネ・新エネ設備機器の導入ばかり多いが、建物の窓や壁面や屋根に施工できる建材・部材（遮熱塗料、二重サッシ、ガラス窓、あるいはフィルム）にも省エネ・CO₂削減性能が良い日本製品も多々あるので、メニューの選択肢は広げて比較して優位な取組を促進していくべき。

【崎田】

- ・家庭部門を中心にした住宅のエネルギーマネジメントも重要であり、効果的なCO₂対策として、省エネ基準も強化される状況にある。そこで、住宅の新築・既設、マンションの新築・既設とも、エネファーム等の燃料電池の導入など、熱を含めたエネルギーの徹底活用に向けた支援策が必要となる。
- ・国民一人一人の実践を「国民運動」として呼びかけているが、小中高校生、大学生、働き盛り年代、シニア世代含めて、新宿らしい実践を地域やビジネス街で広げる。
- ・快適環境を地域で共有する「クールシェア」や、LEDなど環境性能の高い製品を選択する

「クールチョイス」、早朝を活用する「サマータイム」、コミュニティ交通「WEバス」利用の活性化、「サイクルシェア」など、一つ一つ実現させてゆく。

- ・高齢化社会による都市への回帰など、新宿は人口増も予想され、花と緑のまちづくり、みどりのカーテン、などで快適で温かいコミュニティをめざす。

【原田】

- ・部屋の照明器具をLEDにする。
- ・冷暖房の温度設定を1℃変える。
冷 27 ⇒ 28℃
暖 21 ⇒ 20℃
- ・買い物はなるべく近くですます。
(車はやめて、歩くか自転車にする。)
- ・家電製品は使わない時、コンセントを抜く。
- ・新宿区のエコ隊に入って行動する。

【亀井】

- ・再生可能エネルギー電力の自給率向上（東京都は全国最下位）。
- ・水道水の節水（流量調整蛇口・節水シャワー等）。
- ・雨水の活用（庭への水撒き等）。
- ・家電は省エネ性能に優れたエコ製品を選択（製品寿命をチェックのこと）。
- ・環境家計簿等により、日常生活で排出しているCO₂の量を把握する。
- ・電力小売の自由化に伴い、家庭排出CO₂削減を進める。
(電力小売自由化に際し、クリーン電力利用を実情に応じて出来るだけ採用する)
- ・自動車のエコドライブ10項目（エコドライブ普及連絡会）を遵守する。
- ・室内冷暖房設定温度は個人の健康に配慮した温度とする（目安は冷房28度・暖房20度程度）。
- ・電気の使い方はこまめに管理する。待機電力（約5%）管理も含め、出来るだけ元スイッチ管理をする。節電マインドの維持。
- ・戸別設置型の家庭用燃料電池・ガスエンジンの設置推進。

【山本】

- ・東京電力では今後平成32年度までの6年間で、100V・200Vで供給するすべてのお客さまの計量器をスマートメーターに更新する予定。スマートメーター設置済みのお客さまには無料WEB会員サイト「でんき家計簿」を通じて、計測した30分ごとの電気の使用量データ1日分（0時～24時）を、翌日夕方に見える化するサービスなどを開始している。順次、このようなサービスを区民、及び区内事業者にご利用いただくことで省エネルギーに向けた意識付けが促進されるものと考えている。再生可能エネルギーの一つである大気中の熱を活用するヒートポンプについて継続して普及に努めるべき。とりわけ、用途別に家庭の使用エネルギー消費を見た際に大きな割合を占める給湯分野でのヒートポンプの活用を図ってはいかがか。

【手塚】

- ・地表から排ガスを徹底的に減らす為に区民一人一人がいかにマイカーに乗らないようにするか。自転車や徒歩や公共交通機関を若者や元気な人達は積極的に取り組むことをやる段階、状況に来ています。

【遠田】

- ・新たなCO₂削減目標の数値を見ると、私達にライフスタイルの変化が求められているのだ

	<p>ろうと感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「電源が必要な何かをやめる」＝我慢するのではなく 「電源が必要な何かをやめる」＝「今までしていなかった、別の新しい事ができる」といった発想の転換もひとつの考え方だと思います。 <p>【福田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けての行動指針ではなく、区民意識の改革が第一と感じます。区民一人ひとりにCO2削減に対して何が出来るのかではなく「新宿区＝環境区です」と区民への意識の徹底が第一ではないかと考えます。 ・東京オリンピックの主会場を有する区として、世界中の多くの人々が注目する中『「新宿区」は区民あげて、環境問題（CO2削減等々）に対峙している旨』を情報発信してみてもいいでしょうか。 ・政府同様にスローガン（一般公募）を掲げ、区民意識の中に、それを芽生えさせ、そして育んで行こうではありませんか。
事業者	<p>【野村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物所有・テナントが共同して、効果的な省エネ・新エネ設備の導入、省エネ活動について競争・参考にしあう環境・仕組みをつくれませんか。 <p>【福田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けての行動指針ではなく、区民意識の改革が第一と感じます。区民一人ひとりにCO2削減に対して何が出来るのかではなく「新宿区＝環境区です」と区民への意識の徹底が第一ではないかと考えます。 ・東京オリンピックの主会場を有する区として、世界中の多くの人々が注目する中『「新宿区」は区民あげて、環境問題（CO2削減等々）に対峙している旨』を情報発信してみてもいいでしょうか。 ・政府同様にスローガン（一般公募）を掲げ、区民意識の中に、それを芽生えさせ、そして育んで行こうではありませんか。 <p>【原田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿区のエコ隊に入って行動する。 <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー電力の自給率向上（東京都は全国最下位）。 ・水道水の節水（流量調整蛇口・節水シャワー等）。 ・雨水の活用（庭への水撒き等）。 ・自動車のエコドライブ10項目（エコドライブ普及連絡会）を遵守する。 <p>【山本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの一つである大気中の熱を活用するヒートポンプについて継続して普及に努めるべき。とりわけ、用途別に家庭の使用エネルギー消費を見た際に大きな割合を占める給湯分野でのヒートポンプの活用を図ってはいかがか。 <p>【崎田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民一人一人の実践を「国民運動」として呼びかけているが、小中高校生、大学生、働き盛り年代、シニア世代含めて、新宿らしい実践を地域やビジネス街で広げる。 ・快適環境を地域で共有する「クールシェア」や、LEDなど環境性能の高い製品を選択する「クールチョイス」、早朝を活用する「サマータイム」、コミュニティ交通「WEバス」利

用の活性化、「サイクルシェア」など、一つ一つ実現させてゆく。

- ・高齢化社会による都市への回帰など、新宿は人口増も予想され、花と緑のまちづくり、みどりのカーテン、などで快適で温かいコミュニティーをめざす。

「取り組み方針」 1-3

ヒートアイランド対策の推進

○ 取り組み内容

区	<p>【原田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダにみどりのカーテンを作る。 ・区内の道路を整備して街路樹を植える。 <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートアイランド・気候変動対策のハード面（被覆等地面）での対策。 ・質の高い緑化によるクールタウン化の推進（空地に緑、街路樹増殖、駐車場に植樹1本/台の義務化、緑風の道の創造等による緑の間仕切り → 防災性・快適性の確保） ・交通渋滞・排ガス対策にロードプライシング制度の推進。 ・クールビズ・ウオームビズの推進 ・パークアンドライドの実施。 ・カーシェアリングにより自動車の総台数を減らす。 ・エコ・コミュニティーによる「緑花のまちづくり」（街路樹落ち葉の清掃、草取り、緑花の植栽等）の実施。尚、現状の当地区の打ち水は瞬時効果だけであり、イベントも、本番に繋げるべき（本気度がない）。打ち水時間帯を守る事も大切。 ・区民に対し、夏季及び冬季を中心に積極的な省エネを実践する為の細かなキャンペーンを実施する。 ・公道の街路樹を増やし、緑風の道を作り出す。 ・歌舞伎町商店街一角を地下スペース化し、仕入れ等の自動車の地上走行を禁止する。自動車の侵入は大久保通り（他の通りでもよい）から地下に入るよう計画する。（区内でも重要なまちづくりテーマである）
区民	<p>【原田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダにみどりのカーテンを作る。 <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い緑化によるクールタウン化の推進（空地に緑、街路樹増殖、駐車場に植樹1本/台の義務化、緑風の道の創造等による緑の間仕切り → 防災性・快適性の確保） ・クールビズ・ウオームビズの推進 ・パークアンドライドの実施。 ・カーシェアリングにより自動車の総台数を減らす。 ・エコ・コミュニティーによる「緑花のまちづくり」（街路樹落ち葉の清掃、草取り、緑花の植栽等）の実施。尚、現状の当地区の打ち水は瞬時効果だけであり、イベントも、本番に繋げるべき（本気度がない）。打ち水時間帯を守る事も大切。
事業者	<p>【原田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダにみどりのカーテンを作る。 <p>【亀井】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い緑化によるクールタウン化の推進（空地に緑、街路樹増殖、駐車場に植樹1本/台の義務化、緑風の道の創造等による緑の間仕切り → 防災性・快適性の確保） ・クールビズ・ウオームビズの推進 ・パークアンドライドの実施。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・カーシェアリングにより自動車の総台数を減らす。・エコ・コミュニティーによる「緑花のまちづくり」（街路樹落ち葉の清掃、草取り、緑花の植栽等）の実施。尚、現状の当地区の打ち水は瞬時効果だけであり、イベントも、本番に繋げるべき（本気度が無い）。打ち水時間帯を守る事も大切。 |
|---|